

令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録

校名	府立茨木支援学校
校長名	大峠 貴弘
准校長名	紙野 泰彦

開催日時	令和7年11月19日(水) 10:00~12:00
開催場所	府立茨木支援学校 会議室
出席者(委員)	鈴木 博 (元 本校校長) 閑喜 美史(梅花女子大学) 吉田 紳吾(摂津市障害者職業能力開発センター) 吉田 栄一((株)十全) 川又 澄子(地域コーディネーター) 林田 理恵子(PTA 会長)
出席者(学校)	校長:大峠 准校長:紙野 事務長:谷口 教頭:木崎、岸尾 首席:助口、井上(中学部主事兼任)、平水、下田 部主事:板口、生野、田中 指導教諭:吉田 教務部長:細川
傍聴者	0名
協議資料	令和7年度 学校経営計画及び学校評価 令和7年度 第1回授業アンケートについて 令和7年度 学校教育自己診断(茨木支援学校) 令和8年度 使用教科用図書 選定一覧表

議題等
はじめに 事務局からの連絡、校長・准校長あいさつ
次第
1 令和7年度 学校経営計画進捗状況について 2 第1回 授業アンケート授業評価について 3 学校教育自己診断アンケートについて 4 令和8年度 使用教科用図書について 5 意見書について 6 その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

1. 令和7年度 学校経営計画進捗状況について

【報告:校長】

- ・校内支援体制強化:運動会・体育大会を体育館開催(保護者評価高)
- ・災害対応:引き渡し訓練をアンケートなしで実施、全員引き継ぎ完了
- ・組織改編:健康安全部と医療的ケア部の業務整理を進行中
- ・自己診断提出率:昨年度より大幅改善、年度末評価予定

【報告:准校長】

- ・個人情報の管理:ヒューマンエラー防止策の試行状況とチェックシステムの検討について説明
- ・進路支援:7月中学部が施設見学を実施。夏休みには高等部で事業所見学会を実施
- ・職業コース:アビリティピックに3名参加 写真を使用し、当日の様子を説明

◆質問・意見等

【委員 A】

- ・学校組織:保護者から学校に対する健康や安全面での期待を受けて、組織をきちんとした形に整えていくのはとても重要
- ・進路支援:中学部の見学やアビリティピックへの参加は子どもたちに良い経験となったはず。今の時代ならではのニーズとその対応を検討していってもらいたい

【委員 B】

- ・進路支援:希望する進路先を選択する力と定着率があるが、昨年度の卒業生の定着率は?
→確認して回答する(准校長)

【委員 C】

- ・GIGAスクール:活用状況不や登校への対応の際、オンラインでの手応えはどうか?
→高等部における授業で、生徒がオンラインでの参加をしていた様子を説明(准校長)
- ・就労選択支援事業について 現状はどのようにになっているか?
→現状として茨木市が求める実習期間と本校行事との調整が難しい旨を報告(首席)

【委員 D】

- ・個人情報:データの扱いについては難しいと感じる部分がある。システム専門の人がいるわけではないので、時代に則した対応がどう取り入れられるかという点で、ハード面で解決できる部分もあるが、学校の先生が個人情報の扱いの裁量を決めていけるものなのか?
→導入するICT等の物の選定は府がおこなう。管理については学校がおこなうので、学校ごとで規則はバラバラである。個人情報は漏洩しないよう、慎重に教員が決めているセキュリティポリシーについても首席が中心となって確認している(准校長)
- ・進路について:支援学校の卒業生を採用したが、残念ながら2~3年で離職した。卒業生が働くうえで、会社がこまっている部分もあると思う。そこへの対応は何かあったりするのか
→定着率に関わるところでは、卒業後の進路先を訪問したり電話したりすることでアフターフォローを夏休みに行っている(准校長)

2. 第1回 授業アンケート授業評価について

【報告:教頭】

- ・実施期間:6月30日～7月4日(授業参観週間)
- ・回収状況:保護者・児童生徒から回答収集
- ・評価結果:肯定的回答95%以上、課題意見(授業難易度、言葉遣い、マンネリ化)
- ・改善策:否定的言葉遣いの改善、授業内容の工夫
- ・次回:12月1日～5日、最終報告は第3回協議会

◆質問・意見等

【委員B】

- ・自由記述について:学部で子どもの理解度が大きく変わるので、学部が分かれればよいのでは?

【委員E】

- ・具体的にその学部は提示できるのか?
→提示できる加減はあるが、なるべく分かる範囲で示すことができればと考えている(教頭)

【委員A】

- ・2回あるのはいいこと。1回では意見を伝えられないご家庭も多い。PTAとも相談して、回収率があがるなら時期をずらしてもいいのかもしれない
- ・小中と高で保護者の意見の出方が異なることは認識しておくべき。一般の学校を経験しているかどうかに加え、進路が絡むので厳しい目線が入るのは当然。授業の内容にも新鮮さがあるかどうか。
- ・「意見を学校全体で共有し」というところでいえば、言葉遣いや態度に関して教員として以前に、人として超えてはいけない、我慢しないといけないところがあると思う。子どもに対して大人が不適切な形で反応するということは、どんな理由を述べたとしても保護者には理解してもらえないと思う。すべての教員が自分事としてとらえ、信頼される先生、学校をめざしてほしい。

3. 学校教育自己診断アンケートについて

【報告:首席】

- ・対象拡大:高等部生活課程のみ→小学部・中学部・高等部普通課程も全児童生徒にアンケート実施。
- ・質問項目:保護者・教員は変更なし。全児童生徒対象に変更したため、文言を変更。質問数は1問減。回答も簡略化(はい・わからない・いいえ)
- ・自由記述欄:昨年度と同様児童生徒アンケートのみ。全児童生徒対象に文言を変更。「もっと楽しい学校にするには?」
- ・教職員回答率:98%(フォームズ活用)
- ・課題:フォームズの送信漏れ防止策、児童生徒が答えやすい方法などを検討していく。

◆質問・意見等

【委員E】

- ・子どもへのアプローチを考えてくださってありがとうございます。

【委員A】

- ・最後の質問について：去年はこのような質問ありましたか？
 - 子どもたちが答えやすい質問に変更した（首席）
 - いい質問だと感じた。子どもがどんなことを書いてくれるのか楽しみ（委員A）
- ・教職員向けアンケート 看護師にも回答をお願いしているのか？
 - 事務、看護師にも回答してもらっている。教育に関わる部分は必須項目からはずしている（首席）
 - 答えられない質問が並んでいると、回答者が負担に感じることもあるかもしれませんと感じた（委員A）

4. 令和8年度 使用教科用図書について

【報告：教務部長】

- ・学部別に児童生徒の実態に応じた教科書選定
- ・中学部：英語科でデジタル教科書を選定（ネイティブ発音・資料アクセスが容易）
- ・道徳：教科書は選定せず、教員が教材を作成

◆質問・意見等

（委員 A）

・デジタル教科書の良さと紙媒体の良さのバランス デジタルを増やしていく狙いを明確にしておく必要があるのでは。デジタル教科書の多い学年、少ない学年のばらつきは学校としての整合性がつかない 学校としてどうしていきたいか方針が重要かと思う

（委員 B）

・デジタル教科書の良さを自分も実感している。英語の専門の教員でなくてもネイティブの英語を提供できるのはいいこと

5. 意見書について

- ・現時点で学校運営協議会への意見書はなし

6. その他

- ・次回第3回協議会は2月予定、日程はメールで調整

次回の会議予定日時と場所：令和8年2月ごろ 於 本校会議室